



若き心

集まるどころ

10月 (No7)

茅ヶ崎市立鶴が台中学校校長 山口 茂

令和3年10月1日

令和3年度全国学力・学習状況について

毎年4月下旬に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われてきました、「全国学力・学習状況調査」ですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の関係で実施されませんでした。今年度は、例年より1か月遅らせて5月27日(木)に実施されました。先日、その結果が送られてまいりましたので、3年生の担当の甲斐先生(国語)と近藤先生(数学)に結果についての考察をお願いしました。国語と数学の考察と合わせて、生徒質問紙の結果についてもお知らせいたします。

国語

国語全体としては、正答率の割合は国が64.6%で、本校が65%だったので、大きな差はないと考えられます。

国語への関心・意欲・態度

設問4つのうち、「話す・聞く」と「書く」は国や県の平均より高い正答率でした。特に、「書く」の分野では国や県に比べて7.4%も高い正答率でした。反対に、「読む」と「言語に関する知識・理解・技能」は国や県よりも正答率が低い結果でした。なかでも「言語に関する知識・理解・技能」については国や県に比べ4.5%低い正答率でした。

話す・聞く能力

3問中、2問は国や県より高く、特に「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」問題では、国や県よりも正答率が7.4%高く、さまざまな教科で、話し合い活動を多くしている効果が表れていると思われます。

書く能力

3問中、「意見文」に関する2問は、どちらの設問でも国や県に比べ5%ほど高い正答率でした。これは、授業の中で、自分の意見をまとめたりする活動を頻繁に行っているため、能力が伸びている結果だと思えます。

一方、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」では国や県に比べて5%ほど低い結果でした。設問が「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」というものであり、対象を明確にして書くという活動が少ないことが要因だと思われます。また、敬語表現が苦手である点もこれからの課題と言えます。

読む能力

4問中2問が国や県より高く、2問が低い結果でした。特に差が大きかったのは、「文脈の中における語句の意味を理解する」で国や県よりも7%も高い正答率でした。日頃から、授業の中で分

からない言葉があると、自主的に意味を調べていることがこの分野の力を伸ばしていると思われます。また、文学的文章については、読み深める授業を多く扱っているため、読解の見方、考え方などが定着していると考えられます。

言語に関する知識・理解・技能

4問のうち、「文脈に即して漢字を正しく読む」の漢字の2問は、国や県の平均よりわずかに高い正答率でしたが、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」では、わずかではありますが正答率が国や県の平均より低くなっていました。

特筆すべきは「相手や場に応じて敬語を適切に使う」で、国の平均正答率が40.3%なのに対し、本校の平均は21.0%で、全国平均より19.3%も低い状況でした。この結果から、敬語に関する知識が大きく足りていないことがわかりました。敬語に関して、授業で取り扱ってはいたものの、何度も復習したり、繰り返し取り上げたりしてはいなかったため、定着しなかったのではないかと考えられます。

国語のまとめ

授業内で時間をかけて継続的に取り扱っている分野は、能力の定着が確実に見られました。特に、授業の中で生徒が積極的に取り組んでいる話し合い活動や、書く活動、語句や漢字を調べる活動を通して、力がついていることがよくわかる結果でした。

一方、授業の中で短期間、もしくは一度しか取り扱っていない分野は、力の定着が見られなかったこともわかりました。これに関しては、復習などの自宅学習の習慣があまりないことも関係していると考えられるので、知識・理解・技能の定着を図るためにも、定期的に小テストを行ったり、自宅学習の課題を用意したりするなど、継続的な学習の支援が必要ではないかと考えられます。

数学

全体的には正答率が国の平均57.2%のところ本校の平均が57%ということでほぼ同じ正答率になっています。

見方や考え方

数と式の領域が国や県と比べてすべて高い数値を指しています。特に、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題は、国や県よりも8%以上高い正答率でした。また図形の領域では、平行四辺形になるための条件を用いて四角形が平行四辺形になることの理由を説明する問題は、国や県よりも6%近く高い正答率でした。

しかし、資料の活用の領域においては、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題で、国や県より3.1%低い正答率でした。図形の領域では、ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見い出し、それを数学的に表現する問題でも、国や県よりも2%低い正答率でした。

見方や考え方の問題は、ほぼ“記述式”の問題で、このような問題で正答率が高かったことから、内容を理解して解決する力がついてきていることが分かります。一方で、苦手な分野として、データや図形を分析し、考察することが十分に理解できていなかったことが分かります。

技能

数と式の領域で、整式の加法と減法の計算をする問題は国や県よりも7%ほど正答率が低くなっていました。また、具体的な場面で一元一次方程式をつくる問題や、資料の活用の領域で与えられたデータから中央値を求める問題などでも、国や県よりも正答率が低くなっていました。

技能の問題は、解答方法が“短答式”であり、問題の解き方がわからない生徒や、基礎的な計算

力が身につけていない生徒が多かったことが要因であると考えられます。

知識・理解

図形の領域で、扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかを問う問題で正答率が国や県よりも5%近く高く、関数の領域で、関数の意味を理解しているかを見る問題では、国や県の平均よりも14%近く高い正答率でした。

しかし、関数の領域で、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題や、資料の活用の領域でヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題、相対度数の必要性和意味を理解しているかを問う問題などでは、国や県の平均を若干下回る正答率でした。

知識の問題からは、授業や小テストを通じて用語の理解に取り組んだ成果が結果となって表れているように思われます。ただし、表・グラフ・データの扱いが苦手である生徒が存在していることも読み取れるので、これからの授業でフォローしていかなくてはならないと思っています。

生徒質問紙

生徒の意識・行動

「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」や「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。」などの質問に対して、肯定的な回答をしている生徒の割合が国や全国に比べて、5%~8%ほど少なくなっています。

「学校に行くのは楽しいと思いますか。」について、肯定的な回答をしている生徒が本校では68.9%であり、3年生の1/3の生徒は“学校が楽しくない”と思っていることが分かります。これは、国(81.1%)や県(80.6%)に比べて、かなり低い値であり、次年度以降取り組んでいかなければならない大きな課題の一つだと思っています。

「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」という問いに対して、本校は、“長時間ゲームをしている”と答えた生徒が10.1%いて、国(7.3%)や県(7.7%)に比べて多い結果が出ています。

ICT機器の活用

ICTについては、「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」で“よく使用していた”と回答している生徒が69.5%いて、国(33.4%)や県(33.8%)の倍以上になっています。また、「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。」についても“よく使っている”と回答している生徒が81.8%いて、こちらも、国(34.8%)や県(39.8%)の倍以上になっています。さらに、「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」では“そう思う”と回答している生徒が97.8%もいて、3年生のほぼ全生徒が“ICT機器が勉強の役に立つ”と答えています。

本校では、ICT機器を活用した授業に一早く取り組んでいて、これからもいろいろな活用方法を模索し、新しい授業づくりを推し進めていきたいと思っています。

授業改善 ~Think and Link~

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができます。」と答えている生徒が95.7%いるのに対して、「1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。」で肯定的な回答をしている生徒は76.8%にとどまっています。このことから、“友達の話聞く”ことはできていますが“友達の考えが自分の考えとどのように違うのか”

など内容を吟味して聞くことの学習が不十分であると思われます。

「1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」については“そうしていた”という回答が77.6%もあり、国(62.0%)や県(67.0%)よりも10%以上よい結果になっています。これは、授業中に言語活動を大切にしてきた成果だと考えられます。しかし、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。」に対して、肯定的な回答をしている生徒の人数は66.0%と国(75.2%)や県(75.0%)に比べて低い値になっています。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」についても、肯定的な回答をしている生徒の割合が本校は66.0%であり、国(74.7%)や県(74.0%)よりも低くなっています。

授業中に行われている意見交換の質問項目では、国や県よりも肯定的な回答が多くなっていることから、授業で身につけた力を、日常生活の中で十分に発揮されていないことがうかがわれます。

Think and Linkの取り組みをもっと充実させ、授業中だけでなく、日常の学校生活でも生徒のコミュニケーション力をつけていきたいと思っています。

地域とのかかわり

「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」に“参加している”と答えている生徒は30.4%しかおらず、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」に対しても、“考えることがある”と答えた生徒は33.3%しかいませんでした。学区の住宅事情やコロナ禍で地域の行事が中止になっていることなどが原因であると考えられますが、“地域と共にある学校”を目指すうえで、改善していかなければならない課題だと思っています。

新型コロナウイルスの対応について

新型コロナウイルスでの休校について、63.8%の生徒が“不安を感じた”と回答しています。また、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。」という質問に肯定的な回答をした生徒は39.8%にとどまっています。

この結果から、これからも、学校としてできる感染対策を徹底して行い、再び「休校」にはしてはいけないことが見て取れます。

まとめと来年度への展望

今回の、全国学力学習状況調査の結果をもとにして、来年度、鶴が台中学校をより良い学校にするためにさらなる努力をしていきたいと思っています。特に、生徒の1/3が“学校が楽しくない”と回答していることを重く受け止める必要があると思っています。

授業改善では、主体的に取り組むことができる授業を目指していきます。また、ICT機器の活用を推進していこうと思っています。

運動会や合唱コンクールなどの学校行事では、生徒が主体的にのびのびと活動できるような工夫をしていきます。

新型コロナウイルス感染症の対応については、油断せず、学校としてできる最善を尽くしていきたいと思っています。あわせて、生徒の安全を確保するために、防災教育やいじめ防止教育などにも力を入れていきたいと思っています。

生徒一人ひとりが台中に居場所を見つけだし安心して学校に通うことができるように、生徒に寄り添い一人ひとりを大切に育てていきたいと思っています。

お知らせ：10月8日(金)に「学校だよりN08」を発行します。